

# 不登校をやっつける！

## 親子奮戦記

名和隆子  
(塾講師)

第2回

### 「子どもの心のクリニック」に通い始める

●前回までのあらすじ

子どもが小学校3年生の夏休みに、夫が家を出ていきました。そして家計のために、私が公立中学校の講師の仕事を始めますが、子どもが学校にゆかなくなりました。3学期になるとさらに不登校が進み、私は講師の仕事を辞めて、「子どもの心のクリニック」に通い始めました。

#### 「心のクリニック」はこんな感じ

私たちは、ある小児科で開かれていた「子どもの心のクリニック」に通いはじめました。そこでは「子どもの心の相談医」の資格を持つ女医さんによるカウンセリングがおこなわれます。

「洋平くんの様子はどうですか？」

先生の問いかけに、普段から気にかかっていることや、私では判断がつかないことを記したメモをもとに相談します。「子どもの心のクリニック」は、「親の心のクリニック」でもあります。

「朝、全く起きないんです。人形でも揺るような、意識がない人に話しかけるような感じで、1時間くらいそのままの状態です。ああ、また今日もそうなの？と思うと、私の方が泣き出してしまっ……。最後には大声で泣きながら子どもを叩いてしまいます。」

先生への「情報提供」と考えて、恥かしいことも包み隠さず話しました。

「そうですか。起こしてもダメだったら、そのままにしておきましょう。」

「お母さんのんびりお茶でも飲みながら洋平くんが起きるのを待って、1日に1回、3時間目や5時間

目からでも学校に顔を出せばいい、という気持ちでいればいいんじゃないかしら。」

「給食だけを食べに学校へ行ってもいいんだから。」

先生のアドバイスで、今まで膨らむばかりだった私の不安が少しずつ小さくなってゆきました。

「洋平くんはずっと頑張ってきたから、ちよつとエネルギー切れなのかもしれません。しばらくは充電期間ですね。」

そのころ別室で、洋平は心理療法士の方と一緒に絵を描いたりゲームをしたりしながら色々な話をしています。後日うかがった話では、この時に洋平が描いた木の絵から、「洋平が大人の男性の存在を強く求めている」ことが読みとれたとか。緊張を和らげる薬を処方していただいて、診療が終わりました。

#### 学校とも連携を

クリニックの先生は、小学校の担任の先生へ直接電話をされて、学校での様子をヒアリングされました。学校での洋平は、友達をからかったり、勝手な行動をしたりと、問題をおこしてばかり。担任の先生にしてみれば、よく分からない生徒だったのかもしれませんが。しかしクリニックから電話があったことで、担任の先生も洋平への考え方を変えていただけたようでした。

こうして洋平の小学校3年生は、週に2〜3日の登校という状態のまま終わりました。

(つづく)